

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>【札幌市共通指標アンケートの結果から】</p> <p>◇「疑問や課題を解決するために、自分で考えるようにしている。」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。」と回答する児童の割合が増加傾向にある。目標や計画を立てて取組を推進したことが結果に結び付いたと考える。</p>
	<p>【札幌市共通指標アンケートの結果から】</p> <p>◇「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している。」「自分で計画を立てて勉強している。」と回答する児童の割合が減少傾向にある。児童の主体的な計画・実行力（自己調整学習力）に課題があると考え。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇共通指標から「人のよいところを見付けようとしている。」「人の役に立ててうれしいと感じることがある。」と回答する児童が増えていることが分かった。児童に対する「褒める、認める、励ます」といった周りの大人たちの肯定的な関りや年間を通した縦割り活動の取組が、自己有用感の高まりに寄与していると考え。一方で「自分が必要とされていると感じる」等、自己肯定感が全体に比べて低いことが課題として挙げられる。子ども同士の関りや学び合いを充実させるための工夫が重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

### 自ら考え、対話で学びを深める力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>□子どもの学びを止めない発問</p> <p>→生活経験や既習事項と結び付いた教材との出会い</p> <p>自分なりの問いをもち、他者との関りが生まれる学習</p> <p>→進んで学ぶための自己選択・自己決定をする場の設定</p> <p>→自分の学びを客観視し、次の学びにつなげる「振り返り」の習慣化</p> <p>□担任以外の先生から学び、学校全体で学びを支える体制の構築</p> <p>→中学年は学年内教科担任制、高学年はブロック内教科担任制、専科指導</p> <p>→通常学級担任と特別支援学級担任の定期的な交換授業</p>	<p>□子どもの「～したい」が生かされる学級づくり</p> <p>→当番活動は自主的に、係活動は主体的に</p> <p>□よりよい学校生活を目指した委員会活動</p> <p>→「こんな学校にしたい」という目的を明確にした活動計画</p> <p>→児童会の代表と教職員が真剣に話し合える場の創出</p> <p>□子どもが互いのよさを認め合える学校行事</p> <p>→全校朝会を子どもの活躍の場に（司会、学年発表、委員会報告）</p> <p>→相互承認や憧れを育む運動会、学習発表会、異学年交流での遠足</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇複数のツールの中から適当のものを、児童自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。</p> <p>◇Googleformで各自の意見を集約し、ワーククラウド等で可視化するなど、一人一人の意見や考えが反映するシステムを生かすことや、パートナー校との連携のために、オンラインミーティングの機会を作り、子ども同士の声をつながられるようにする。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>



